

2021 年 7 月 5 日

6 割の会社員、ハイブリッド勤務などで「勉強に費やす時間が増えた」

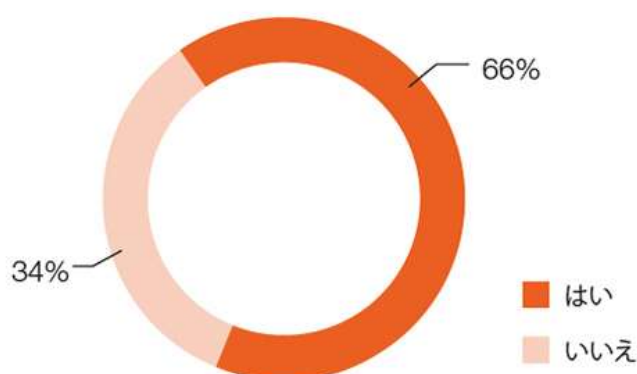
専門知識などを武器に働くナレッジワーカー系の会社員 299 人が回答

グローバル人材の転職を支援する人材紹介会社のロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：ジェレミー・サンブソン）は7月5日、専門スキル、英語力、グローバルビジネスへの深い理解を活かして国内の第一線で活躍する会社員を対象に「会社員の勉強実態」を調査したアンケート結果を発表しました。

ハイブリッド勤務を活用し「勉強に費やす時間が増えている」

回答を寄せた 299 人の会社員のうち 66%が、在宅勤務を組み込んだハイブリッド勤務およびステイホームを機に「勉強に費やす時間が増えている」と答えました。

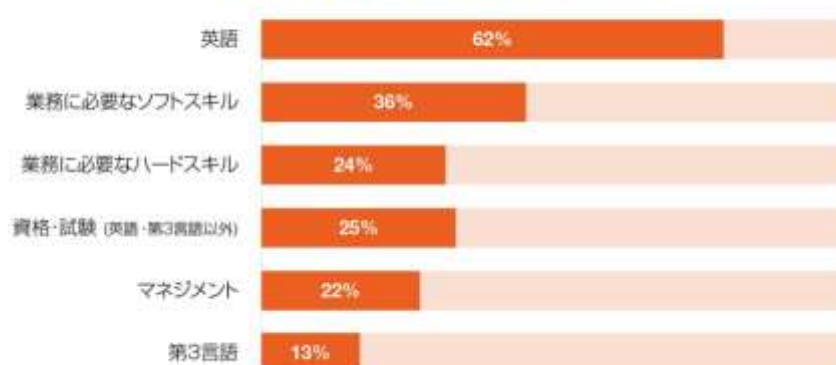
ステイホームを機に勉強に費やす時間が増えましたか？



習得を目指すもの：1 位「英語」、2 位「ソフトスキル」

勉強している内容では、回答者の半数以上が「英語」（1 位 62%）、3 人に 1 人が「仕事に必要なソフトスキル」（2 位 36%）の習得を目指して勉強していることがわかりました。また、さらなるキャリアアップに向けた資格取得・受験に向けて勉強している会社員も 25%いたほか、部下を持つ上司層では 36%が「マネジメント」を学んでいます。

何を勉強していますか？（複数選択可）



これらの結果は、コロナ禍で DX などのデジタル化・省人化、グローバル化がさらに加速したことも受けて、スキルアップに努める会社員が増えていることを示唆します。

勉強の頻度：3人に1人が「毎日勉強している」

今回の調査で「勉強習慣が全くない」と答えた会社員は全体のわずか 8%でした。さらに、「毎日」（1 位 36%）、「毎週」（2 位 26%）など、スキル人材の 6 割以上が習慣的に勉強をしていることがわかりました。特に 20 代では 41%、30 代では 42%と毎日勉強している人の割合が高くなっています。



また、勉強している時間帯については、「週末・休日」（63%）、「勤務時間後（夕方・夜）」（62%）に次いで、「勤務時間前（早朝）」を活用する朝活派も 3 割近くいます。



緊急事態宣言下での在宅勤務またはハイブリッド勤務では、1 日または 1 カ月あたりの通勤時間が大幅に削減されたことにより、勤務時間前後の時間を有効利用してスキルアップ・学びなおしに充てやすくなっていることをうかがい知ることができます。今回の調査結果からは、平日のワークライフバランス向上が影響して、週末・休日にも勉強時間を割く余裕が出てきているといった兆しもみることができます。

調査期間：2021 年 6 月 17 日～23 日

対象：弊社サービス登録者 n=299 人

＜本件に関するお問い合わせ先＞

ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社 広報

TEL : 03-4570-1500 e-mail : info@robertwalters.co.jp

ロバート・ウォルターズ・ジャパン株式会社について (<https://www.robertwalters.co.jp/>)

ロバート・ウォルターズは1985年に英国・ロンドンで設立され、世界31カ国/地域の主要都市に拠点を持つ、スペシャリストのための人材紹介会社です。ロバート・ウォルターズ・ジャパンは同社の日本オフィスで、バイリンガル人材に特化しています。2000年に東京オフィスを、2007年には大阪オフィスを開設。グローバル企業、日系企業ともに世界有数のトップ企業から新規参入企業、中小企業に至るまで、多岐に渡る業種・職種、正社員および派遣・契約社員と幅広い採用ニーズに応えた人材紹介をおこなっています。国立新美術館、世界で戦う日本人アスリート、各種NPOの支援など日本社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。